長堂３丁目 永田医院　永田輝義氏

第4回

わが社の防火

長堂３丁目　永田医院

この度、令和3年3月7日、消防記念日に消防行政協力者として感謝状をいただき誠にありがとうございます。

早いもので東大阪市西防火協力会員として37年経過しています。その間、消防署には診療所として、不特定多数の集合場所として防火設備、誘導管理指導をいただいたり、救急患者の救命対応しながらの搬送業務にと大変お世話になっています。

思い起こせば、救急体制も現在ほど組織化されておらず、ご無理を申し上げていたようです。時の経過につれて、近時は訓練された消防隊員さんたち、救急救命士さんたちの昼夜にわたる活躍を目の当たりに拝見し、地域安全の役割を十分果たされている様子に頭が下がる思いです。

私事になりますが、現在地　長堂３丁目に昭和45年9月に有床診療所として外科を中心に開設いたしましたが、皆さんご承知のごとくバブル期に何処も同じで医療従事者、特に看護師不足に遭遇しやむを得ず、有床を廃止し無床化に切り替えました。当然外科中心では診療的に不都合が多く、外科は小外科に留め内科系へ重点を置くように頑張りました。この根底は、昭和41年12月から昭和42年3月まで離島、与論島（当時人口約7000人）の診療所へ一人医師として赴任したことと後に約一年半救急勤務経験が活かされたようです。卒後教育学習講座内科系にできる限り出席し新しい医学知識を吸収勉学しながら、今日を迎えています。

今は臨床内科専門医、日本糖尿病協会療養指導医、認知症予防専門医、産業医、健康スポーツ医、指定学校医、認定かかりつけ医、難病指定医、ガン緩和療医（28号）等を得、少しでも地域医療に役立つように従業員と力を合わせ微力ながら頑張っているつもりです。

では、又話を元に戻しますが、火災の元は火です。当たり前のことですね。東日本大震災から早十年経ちますが復興はいまだ途中ですし、悪いことに昨年covid-19（新型コロナ）が発生し、社会生活に混乱をもたらしています。インフルエンザウィルスはワクチンと治療薬で制圧できましたが、covid-19はようやくの段階ですが、残念ながら遅々として治療法は進まず、むしろ変異ウィルスが各地で多発し、その生態は解明されず人類を悩ませています。そのさなか、非常事態宣言も解除されましたが、今後どうなるかは不明です。密にならず、マスク、手洗いすることはまず大切です。自分自身をしっかりと守ることです。当診療所では換気を十分にし、ドアノブ等の消毒を火の元用心と同様に忘れないよう努めています。

私の座右の銘にしています**「1灯をかかげて、暗夜をゆく」**ですが、佐藤　斉、陽明学者が唱えられた言葉です。この元は中国宋代の禅僧、仏果が「脚下を看る」と表現したことを更めて述べられたようです。当時は灯は火の元です。心の持ち方も火の用心から始まると思います。

自然災害を大きくするのも、小さくするのも人工災害への予防、心構えと実行が大切だと思います。早くcovid-19が終息することを願って防災・消防記念日の意義を更めて噛みしめて、筆をおかせていただきます。

ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月26日記

永田医院　永田輝義